



社会福祉法人 あいの里 さやま保育園 2026年1月1日

保育目標 ご恩 つとめます

- ・お正月遊びをお家のの人や友達と共に楽しむ。
- ・親鸞さまのご苦労されたお話を聴き、手を合わせる。



【法話】

ごしうきほうおんこう 御正忌報恩講

新しい年、令和8年、2026年の新年を迎えました。あけまして おめでとうございます。

年末にはインフルエンザ流行等がありました、旧年中は、みなさま方には、御理解御協力くださいましたこと、厚く御礼申し上げますとともに、職員含め当さやま保育園に対し、大変お世話になりましたこと感謝致します。

今年も、どうぞよろしくお願ひ致します。

1月には、26日に「かるた会」(ほとけのこどもいろいろかるた)、そして16日には、「御正忌報恩講」でお寺にお参りします。お正月を始めとする、日本の昔からの文化習慣を大切に感じていきたいと思います。

御正忌報恩講とは、お釈迦さまの説かれた南無阿弥陀仏のお念仏のみ教えを私たちにわかりやすく教えてくださった親鸞さまをしのぶ、報恩謝徳の行事です。

親鸞さまは、1173年5月21日に生まれられ、90歳の1月16日に往生されました。その御一生は、いばらの道でした。しかし「大悲の願船に乗じて光明の広海に浮かびぬれば、至徳の風 静かにして、衆禍の波転ず」と、阿弥陀さまの本願を信じ、念仏に生かされることによって、このいばらの道が、そのまま真実への道であることを、その身をもって私たちに教え示して下さった一生でもあります。

御正忌報恩講は、親鸞さまの御法事ですが、ただ親鸞さま有り難うではなく、この私が、そのご苦労をしのび、親鸞さまが伝えてくださったお念仏の教えをしっかり聴聞し、お念仏をよろこぶご縁とさせていただく行事です。まず私が、他力の信心を得て浄土往生を決定することが、親鸞聖人にに対する何よりの御恩報謝となるのです。ただの親鸞様ありがとうの行事ではないのです。

合掌



今月の行事予定

- 1・2・3日 お正月休み 6・19日 札挙
- 9日 不審者訓練 発育測定(14日 ぞう・きりん)
- 15日 うさぎ・りす 16日 あひる・ひよこ)
- 16日 御正忌報恩講お寺参り 19日 卒園記念写真
- 20日 クッキー作り 21日 誕生会 22日 ぐりぐら絵本
- 23日 避難訓練 23日 わくきら♪フェスティバル
- 26日 かるた会 26日 集金引落
- 29・30日 ピッパラセール (出品物回収 21~28日)



『音感受』、表現させるよりも大切なこと

真夏の水あそびの時でした。先生がホースで日除けのネットにかけた水滴が、パラパラと音を立てて子ども達の所に落ちてきました。「冷たい！雨が降ってきたよ！」「雨の音がする！」「(桶の)水たまりに落ちる音と、空っぽのバケツに落ちる音が違う！」「私の手に落ちる音も違う！」ほんの数分の出来事でしたが、水滴が落ちてくる音を雨と感じることができ、水たまりと、バケツと、手に落ちる音が違うと感じる力、聴きとる力が凄いなあと感心しました。

このような「音を感じ取って、イメージする力」のことを『音感受』と言うそうです。乳幼児期には、音の高さなどを認知する『音感』より、『音感受』を育てることが先と考えられています。視覚的にどう見えていたか、肌感覚としてどうだったかの記憶と共に、どう音が聞こえていたかが、心が感じた音となり、そこではじめて表現として音楽が楽しい、演奏してみたいに繋がっていくそうです。乳幼児期は、こんな心が感じる経験を、お友達や先生との安心した関わりの中でたっぷり感じることが大切だと言われます。

今年度、わくきら♪パレードからわくきら♪フェスティバルに変わりました。今までの発表会を参考に、子ども達がお父さんお母さんに観てもらいたいこと、やりたいことをサークルタイムで話し合い、やりたいことが拡がって、園内をすべて使い、一人ひとりが輝き続ける行事になりました。自分がやりたいことを選ぶことは、自分の良さや強みなど一人ひとりの素晴らしいが見えてきて、それが集団の中で協働的な遊びとなって拡がってきます。11月に入った頃から、ホールでダンスや歌の発表会が開催され、サイン会や推し活、衣装作りが始まりました。お家の方と創るともっと嬉しいものができるのではと夢が広がりました。手作り楽器が次々にできて保育室で演奏会になりました。ホットボンドを使うと想像する物づくりが自由にできて、たくさん集まった素材を使って何を作ろうかとわくわくしました。

「やらされる行事でない(子ども達の心が動き自分のやりたいことが認められている環境にある)と、自分たちで作るんだという姿、失敗しても諦めず何度もやろうとする姿、子ども達ってこんなにできるんだ、凄いなあと感じました。」と、若い保育士が教えてくれました。